

概要

霞小学校 第一回学校図書館運営委員会

2023(R5)7.31(月) 15:30~16:40

運営委員会開催のねらい

校長が学校図書館の館長としての役割を担い、図書の選定・廃棄方針を決定する等、計画的、組織的に図書館運営がなされるようにする。

構成メンバー

校長・教頭・教務主任・図書館担当教諭・前年度図書館担当教諭

協議内容

* 現状の共有

児童アンケートより

- ・ 図書館が好きな児童は7~8割
- ・ 図書館がいつも開いている方がいい8割
- ・ 本を紹介する文章を書きたい3割

取組

- ・ 図書館補助員に、朝読書用の図書を紹介してもらい教室に配架している
- ・ 図書ボランティアによる読み聞かせ
- ・ 購入物品の検討

図書館のルール

- ・ 図書貸出冊数の上限1冊
- ・ 本は先に返却処理をして、借りる際にもう一度並んで貸出処理を行う
- ・ 返却貸出処理は教員、図書館補助員、図書委員が行う

* 現状からの検討

- ・ 教師が図書館にどんな本があるか、もっと知るために図書館で研修を行う
- ・ 公共図書館サービスの活用
- ・ 貸出冊数上限の見直し
- ・ 貸出返却の列の解消方法

まとめ

現状やルールを確認することで、再考すべきものが見えてきた。活用できない理由は、図書館について知らないという要因がある。全教職員に図書館について発信していく。



【図書館の様子】

詳細

* 現状の共有

司書教諭 図書館や読書に係る子どもたちの現状についてです。

「図書館が好きですか。」

好きではない 1



○色んな種類の本があって楽しい。色々なことを知れる。

●漫画が少ない。

「図書館がいつも開いている方がいいと思いますか。」



○気軽に行ける。本が好き。

●図書委員の取組が追い付かない。

「本を紹介するための文章を書いてみたいと思いますか。」



○おすすめをみんなに伝えたい。

●自分で見つけて読むのが楽しい。文字を書くのが苦手。

「いつもどんな本を読んでいますか。」

- ・サバイバルシリーズ
- ・どっちが強いシリーズ
- ・図鑑
- ・小説
- など

「いろいろな種類の本を読みたいと思いますか。」



○自分の世界を広げたい。楽しみ方が違う。

●いつも読んでいる本だと安心する。何回も同じものを読みたい。

「どんなイベントがあればもっと図書館に行きたいと思いますか。」

- ・読む量を競い合う
- ・本のクイズ
- ・2冊借りることができる日をつくる
- ・スタンプラリー
- ・本を探す宝探し
- ・読み聞かせ
- など

「授業でもっと図書館を使ってみたいと思いますか。」

思う 84

思わない
16

- 自分で調べたことは頭に入る。教科書よりたくさんの情報がある。
- 行かなくてもできる。タブレットで調べられる。

予算についてです。

棚を眺めてみると、子どもたちが興味をもっていないながら蔵書が少ないジャンル(自然科学)があります。子どもたちの興味にそって、本を増やすことができればと考えています。

また、現在、カウンター前に貸出返却のために、たくさんの児童が並び、その時間に借りられない事態が起きています。貸出返却の作業時間短縮につなげるために2台目のパソコンの購入を考えています。

学級文庫の本がずっと変更なく置いてある状態です。本のローテーションを行いやすくするために、ブックトラックがあったらいいと考えています。



【ブックトラック】

図書ボランティアの方は、1日に6,7人来てくださり、各クラスで読み聞かせをしてくださっています。中学校区で読み聞かせに行ってください。

図書館のルールは、

- ・1度に借りることができる冊数は、1冊、長期休暇中は3冊。
- ・静かに走らず利用する。
- ・本は先に返却処理をして、借りる際にもう一度並んで貸出処理を行う。
- ・読みたい本の貸し出し中の時は、図書委員か教員に伝えて、予約の紙を記入。本が返ってきたら、取り置きしておきして予約した子に渡す。
- ・貸出処理は、図書委員が行う。

形骸化しているルールや、見直すべきルールがあれば、後ほど意見を出してください。

1学期の子どもたちの利用頻度についてですが、昨年度とあまり変わってはいませんが、先生方の授業での利用頻度は増えています。

また6学年では、図書館補助員と連携し、朝読書の時に読む本を教室に配架する取組を行っています。

* 現状からの検討と取組

教 諭 アンケート中に、いつも開いていることに否定的な解答をしている子どもがいました。実は、その回答をしているのは、自身のクラスの子どもです。「時間になったから教室にもどろう」と声かけをしたが応じてもらえなかった経験があったようです。常に開けていることで良さはたくさんありますが、開けていてよくない状況もあるということがアンケートの結果として見えました。なぜ常に図書館を開けようとしているのかを、子どもたちが考えるチャンスだなと思います。この運営委員会において方向性を決めるのは大切なことですが、8月に行う図書館利用にかかわる研修において議題にあげて、全教職員で考えてみたいのです。

貸出返却作業の時間短縮については、パソコン2台もよいと思いますが、返却箱を用意していてそこに返すようにできればいいなと思います。システム上の貸出冊数の上限をなくしておけば、列が長いときは、返却作業を経なくても、貸出作業を行えるようになります。

教 諭 デメリットとしては、返却された本を棚に返すことの作業の手間が増えることと、自然科学や社会科学等の本がブックトラックに残ったままになるので、せっかく分かりやすく本を分類・配架しているのに、本が探しにくくなります。今は、補助員の先生が対応してくださっていますが、みんなが臨機応変にそのあたりの対応できたら、パソコンが1台でも、貸出返却の列を短くすることができるかもしれませんね。

私は、霞小学校図書館が読書センターとしての機能は、それなりに発揮できていて、学習センターとしての機能を高める必要があると考えています。そこで、なぜ現在、学習センターの機能が十分に発揮できていないのかを考えてみました。

一つは、先生たちが授業のどの場面で使ったらいいか分からないということです。どこにどんな本があるか分かる必要があります。その時に、先生方にこんな活用ができそうだと共有出来たらいいですね。カリキュラムマップに位置づけるのもいいけれど、文字が増えて見えにくくなってしまいそうだから考える必要があります。ただ前年度の取組が積み重なって残っていく形にすれば、次の年度にそれを見て参考できそうだなと思います。

もう一つは本が少ないということがあると思います。図書の購入を進めるとともに公共図書館との連携が必要です。先生方の中には、公共図書館のサービスを利用したことがない方がいると思うので、まず団体貸出しについて伝えていきたいと思います。

うちの図書館の強みは新聞と雑誌だと思っています。雑誌はタイムリーな話題があり、理科とかで使えそうなものがいっぱい載っています。毎月届きますが、うまく活用できていないと思っています。このことについても、今後考えていきます。



教 諭 先生の話聞いていて、自校の図書館について知らないことが多くありました。雑誌を定期購読していることも初めて知りました。だから、自分のクラスの子もたちに、そのことを伝えられていませんでした。転勤や担当の教諭が変わる度に、図書館運営の考え方やノウハウが途切れたり、0に戻ったりしないように、組織で積み上げて残していく必要があると思います。雑誌の内容の共有も、授業を変えていく上で大切だと思います。新しい雑誌を受け入れしたら、一度職員室で回覧するなど、図書館の情報を発信していくことが、この学校図書館運営委員会の大きな役割だと思います。

これまで、自分自身が、なぜ図書館に来なかったのかを考えて、これまで時間のゆとりがないことが問題だと思っていましたが、今日話をしている、図書館について知らないから来ていなかったのだと思うようになりました。

教 諭 子どもたちが、図書館をもっと身近に感じられるようにするために、朝読を図書館で行うのもいいかもしれません。また先生たち、どんどん利用する必要があると思います。他国の図書室では裁断機等が図書館にそろっており、教師は図書館の中で教材づくりをしたりすると資料で読んだことがあります。

教 諭 教材研究の時間を計画的に設定しています。図書館でしてみるのもよいですね。ここに来る理由というのが、きっとその裁断機とか、日常の動線の中に図書館を入れ込むのがいいのだと思います。裁断機は難しくても、模造紙とか文房具があれば、図書館で学びの足跡掲示を作ったりもできます。机はちょうどいい大きさです。

教 諭 貸出冊数の上限を見直すのであれば、どうやっていきますか。まずは、システム上は貸出上限をなくし、子どもたちには2冊の貸出上限を伝える方法でやってみますか。列が長いときには、返却箱に本を返し、パソコンでの返却手続きを後回しにする。人が少ないときは、これまで通り、返却手続きをして、借りる本を選びにいくでよいですか。この形で行うならば図書委員と共有する必要がありますね。

2台目のパソコンを買うかは、システム会社に費用等を聞いたのちに検討しましょう。ブックトラックは、同じ階の学級文庫をローテーションする際にはとても便利だと思います。どれくらい予算が必要か確認して検討しましょう

校 長 次は、全体の研修を行って2学期をスタートさせ、取組がうまくいっているかも含めて次回、話し合います。